



联合国
粮食及
农业组织

FOOD AND
AGRICULTURE
ORGANIZATION
OF THE
UNITED NATIONS

ORGANISATION
DES NATIONS
UNIES POUR
L'ALIMENTATION
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION
DE LAS NACIONES
UNIDAS PARA
LA AGRICULTURA
Y LA ALIMENTACION

منظمة
الغذائية
والزراعية
للأمم
المتحدة

Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101
Facsimile: (045) 222-1103
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

F A O (国際連合食糧農業機関) 日本事務所
2010年3月25日

LOJAPR10/07-No. 156

プレスリリース

**世界の森林消失は減少へ、しかし、多くの国で依然警戒を要する
FAO が世界の森林資源評価の主要な調査結果を発表**

2010年3月25日、ローマ-FAO が25日に発表したところによると、主に熱帯林を農業用地に転換するために生じている世界の森林消失は、過去10年に減少しているものの、多くの国では依然警戒を要する高い確率で継続されている。

今日最も包括的な森林概観であるFAOの「2010年世界森林資源評価」によれば、世界的には1900年代の年間1,600万ha対し、2000年から2010年は年間約1,300万haの森林が他の用途に転換または自然災害で失われている。報告書は233の国と地域を網羅している。

ブラジル及びインドネシアの森林消失は、1990年代に最も大きく、最近では消失率が顕著に減少している。更に、中国、インド、米国、ベトナムなど各国での意欲的な造林計画と一部の地域での自然増が重なり、年間700万ha以上の新たな森林面積の増加がみられた。結果的に森林の純減少面積は、1990年代の年間830万haから、2000年—2010年には年間520万haに減少している。

世界の総森林面積は40億haを若干超えて、総土地面積の31パーセントを占める。2000年—2010年の森林の年間純減少面積はおよそコスタ・リカと同面積である。

南アメリカ及びアフリカで最大の消失

南アメリカ及びアフリカは、2000—2010年に最大の年間森林消失があり、それぞれ年間400万ha及び340万haを失った。オセアニアもまた、一部オーストラリアで2000年以降発生している深刻な干ばつにより純消失を記録した。

一方、アジアは主に中国、インド及びベトナムにおける大規模植林プログラムによりこの5年で年間400万ha近く森林面積を拡大したことにより、この10年に年間約220万haの純増加を記録した。しかし、多くの国で依然高い率で森林地を他の用途に転換している。

北米及び中米では、森林面積は比較的安定して推移しているが、欧州では以前より増加率は低下しているものの、増加を続けている。

エドワルド・ロハス FAO 林業局長は、「地域及び国際的なレベルでの協調のとれた努力により、我々は初めて森林消失率が世界的に減少したことを報告できます」と述べた。

「各国は、森林政策と法令を改善したのみならず、森林を地域社会や先住民たちの利用や生物多様性の保全やその他の環境機能にも宛てた。これは国際生物多様性年である 2010 年には非常に歓迎できるメッセージである。」

「しかし、多くの国で依然森林消失率は非常に高く、人間の活動の影響を受けていない原生林も減少を続けているため、各国は今後もより良く保全・管理する努力を強化しなければならない」と彼は加えて述べた。

森林と気候変動

森林は気候変動緩和に重要な役割を果たす。森林は大量の炭素を固定することができる。森林が伐採され他の用途に利用されると、炭素が大気中に再度戻る。

「森林消失率が下がり、新たな森林が造成されたことで、森林消失や森林劣化による森林からの高い水準の炭素排出を下げるのができた」、とメッテ・ロエイチェ・ウィルキエ評価調整官は述べた。

「しかし、我々は森林面積の最近の増加のほとんどを占める中国、インド、ベトナムでの大規模な造林プログラムが 2020 年までに終了する予定であることを鑑み、今後のことを考えなければならない」、と彼女は加えて述べた。「これは、現在の森林減少及び劣化率を顕著に下げる効果的で恒常的な手段を整備する好機は短いということを意味する。そのような介入がなされない場合には、我々は突然 1990 年代のような高い森林消失率と森林からの炭素排出に戻る恐れがある」、と彼女は述べた。

FAO の世界森林資源評価は 5 年毎に発表される。178 カ国の 900 名以上の専門家が 2010 年世界森林資源評価に携わっている。評価の主報告書は 2010 年 10 月に発表される予定である。

主要な調査結果

報告書のその他の主要な調査結果は以下の通りである。

- ・ ブラジルは、1990 年代の年間 290 万 ha に対し、この 10 年で年間平均 260 万 ha の森林を消失した一方、インドネシアではそれぞれ年間 190 万 ha と 50 万 ha という数字であった。
- ・ 原生林は全森林面積の 36 パーセントを占めたが、2000 年から 4,000 万 ha 以上減少した。この消失は主に択伐やその他の人的介入による原生林の「その他の天然生林」への再定義による。
- ・ 国立公園、自然保護区域及びその他の法的に保護された森林地域は、1990 年から 9,400 万ヘクタール以上増加し、全森林面積の 13 パーセントに相当する。
- ・ 森林は世界の炭素吸収源の主要なものである。木及び植物の中には約 289 ギガトン(Gt)の炭素が貯蔵されている。森林のバイオマス、枯れ木、落葉落枝及び土壌に貯蔵された炭素は、大気中全ての炭素より多い。2000-2010 年には、主に全体の森林面積の減少により、世界的に森林バイオマスにおける炭素貯蔵は年間推定 0.5Gt 減少した。
- ・ いくつかの国では、火災、害虫及び病気が益々森林に被害を与えている。平均で、毎年全ての森林の 1 パーセントが森林火災に著しく影響を受けていると報告されている。森林害虫の発生は年間約 3,500 万 ha の森林に被害を与えている。この 10 年に暴風、暴風雪及び地震のような過酷な自然災害もまた、大きな被害を与えた。
- ・ 76 カ国が 2000 年以降森林政策を策定または更新し、主に欧州及びアフリカの 69 カ国が 2005 年以降森林法令を制定または改正した。
- ・ 世界森林資源評価のデータ収集はより包括的かつ正確になってきている。過去 20 年の新規植林及び森林の自然増加に関する新たなデータと追加情報により、より正確に自然状況による森林減少及び消失率を推定することを可能にした。1990 年から 2000 年間の最新の世界推定

(年間 1,600 万 ha 近く)は、森林面積の総合的な純増加の見られた各国においても森林減少があることを含んでいるため、従来の推定(1,300 万 ha)より高い。

- FAO 主導による森林のリモートセンシング調査は、約 13,500 の現場を 15 年間サンプルしたもので、2011 年末には、世界的及び地域の森林減少率のより正確なデータを提供するであろう。
- 英文 URL: <http://www.fao.org/news/story/en/item/40893/icode/>